統合報告プロセス2

統合報告書で示される統合報告プロセスに 関連するコントロールの設計と実装への取組み

コントロールの整備・ 運用評価

理解

統合報告書の 限定<u>的保証</u>1

統合報告書に重要な 虚偽表示が発生する 可能性のある領域を特 定するための手順。

すべての重要な点において、統合報告書が統合報告フレームワークに準拠して作成されていないと思わせるの実施者の注意を引いたがについては論を出すためにあいて、結合かかつ適切ながあります。

手続きとテストが広範囲に拡大

限定的かつ合理的な統合報告書の保証業務には、ガバナンス、戦略、資源配分、ステークホルダーとの関係性のマネジメント、ビジネスモデル、リスクと機会のマネジメント、戦略と業績のスコアカードに関連する管理文書の照会や観察、検査、分析手続き(総称して「評価」)が含まれ、統合報告書におけるそれらの表示を評価することが含まれます。

限定的な保証業務と合理的な保証業務のいずれにおける手続とテストの性質と範囲は、業務の個々の状況によって異なりますが、合理的な保証業務の場合は、より広範なものとなります。

合理的な統合報告プロセスの保証のためには、統合報告プロセスおよび価値創造に関連するその他の主要なビジネスプロセスにおけるマネジメントコントロールの評価を含め、関連する統制の運用の有効性に関する十分な適切な証拠を入手することも含まれなければなりません。

限定的保証の業務では、主に、管理文書のレビュー、照会・観察、および分析手順によって証拠を入手することになります。合理的保証の業務と比べて、コントロールのテストや外部情報源からの証拠入手に重点を置く必要がある場合は、それを軽減することができます。

統合報告書の 合理的保証

統合報告書における重要な虚偽表示のリスク、統合報告書で示される統合報告書で示されるその他の主要なビジネスプロセスの効果的な運用を特定し、評価するための手順。

保証業務の実施者の 意見では、統合報告フレークに従って、あらいて適切に作成されているかどうかを結っているかといるがあります。必要があります。

理解

価値創造に関連する主要なビジネスプロセス2

統合報告書で示される取締役会、経営会議、 その他の主要なビジネスプロセスに関連する コントロールの設計と実装への取組み コントロールの整備・ 運用評価

- 現在までに確認されている統合報告の保証の6つの事例はすべてこのカテゴリーに含まれています。
- 統合報告の合理的保証の構成要素。統合報告の合理的保証に移行する際、統合報告プロセスや価値創造に関連する主要なビジネスプロセスは、限定的または合理的な保証業務、または合意された手続(AUP)契約の対象となる可能性があります。そのような契約は、私的報告(例えば、取締役会への)または公的報告のいずれかをもたらすように契約することができます。